

第二復員省公報

第二八號

昭和二十一年一月四日

○令 達

昭和三十九年官房第九四八號明治三十七八年戰役海軍記念日ノ
件、昭和二年官房第二九一二號ノ三黃海海戰記念日當日執務振
ノ件及昭和四年官房第一七八二號海軍記念日(五月二十七日)
ノ件、緊急事務アル者ノ外休務トスルコトヲ得ルノ件ハ之ヲ廢
止スルニ付、

昭和二十年十二月二十八日

第二復員大臣 大 伍

○通 牒

二復人事局扶第一五號ノ二七

昭和二十年十二月二十九日

第二復員省人事局長

關係各廳長殿

敝位敝勳取扱ニ關スル件通牒

本月二日以後ノ首題取扱ニ關シテハ從來ノ諸規定ヲ準用スル義
トシ知相成度

第二復員省公報第一八號 昭和二十一年一月四日

庶務主任

擴圖

21.1.

接受

道テ海軍武官ヨリ第二復員官及同官補ト爲リタル者ハ文官ト
シテノ敝位敝勳ヲ取扱ヒ又海軍武官ニシテ未ダ復員シ在ラザ
ル者ハ復員迄武官トシテ取扱ハルモノニ有之尙職務加算ハ
終期未定ナルモ一應本年九月二日ヲ以テ終期トシ處理セラレ
度

○難 款

○移轉

當部ハ十二月十七日門司市仲町一丁目(門司地方掃海部隣)ヨ
リ門司市海岸通り上陸地連絡所門司支部内(舊海軍武官府電話
門司三〇四四番)ニ移轉セリ
(吳地方需品部關門支部)

○事務開始

吳地方復員局ハ十二月一日吳市下山手町(終戰後移轉セル吳鎮
守府廳舍)ニ於テ事務ヲ開始セリ
(吳地方復員局)

當支部ハ十二月一日青森市浪打松森通舊大湊海軍施設部工員宿
舎跡(青森中學校隣)(浪打驛ヨリ徒歩約二十分)ニ設置シ事
務ヲ開始セリ
(大湊地方復員局人事部支部)

横須賀地方復員局人事部浦和支部ヲ十二月十四日浦和市常盤町四丁目(舊浦和聯隊區司令部)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(横須賀地方復員局人事部)

○取消

左記ノ者ハ十二月十九日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消セラレタリ

記

- 海軍軍醫大佐 三浦敏郎(一七)
- 海軍軍醫中佐 衣川清三郎(三三)
- 同 小林勝郎(四)
- 海軍齒科醫大尉 桑ヶ谷八郎(四)
- 海軍齒科醫少尉 鈴木秋男(一七)

○正誤

第二復員省公報第一〇號令達欄内令第六號(三二頁上段)中「元第二十三號驅潛艇」及「同黒島」ヲ削除ス

第二復員省公報

第二〇號

昭和二十一年二月八日(火)

第二復員大臣官房

○令 達

達第三〇號

大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例外一件中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月三十一日

第二復員 大臣

一 大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例外中左ノ通改正ス

「大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例」ヲ「第二復員部内國庫納金納付手續特例」ニ改ム

第一條中「大東亞戰爭中海軍軍人」ヲ「海軍軍人(特別輸送艇ノ乗員以外ノ外地ニ在ル者ヲ謂フ以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第二條第一項中但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ内地外ニ在ル者及艦船乗員ニシテ内地港域外ニ在ルモ限ニ在ラス

第三條 支出官及出納官吏ハ昭和二十一年二月分係給ヨリ前條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル國庫納金ノ額ヲ昭和二十一年二月末日迄ニ第二復員省經理局長ニ通報スルモノトス

第四條 第二復員省經理局長ハ別ニ定ムル所ニ依リ國庫納金ノ年額ノ十二分ノ十ヲ昭和二十一年三月末日迄ニ歳入ニ納

付ノ手續ヲ爲スモノトス

第六條中「海軍省經理局長」ヲ「第二復員省經理局長」ニ改ム

附則第二項ヲ削ル

二 大東亞戰爭海軍所得稅徵收手續特例外中左ノ通改正ス
「大東亞戰爭海軍所得稅徵收手續特例」ヲ「第二復員部内所得稅徵收手續特例」ニ改ム

第一條中「大東亞戰爭中海軍」ヲ「第二復員部内」ニ改ム

第三條中「海軍」ヲ「第二復員部内」ニ改メ「(加給ヲ除ク以下之ニ同ジ)」ヲ削ル

第四條中「軍人(下士官兵ヲ除ク以下之ニ同ジ)及軍屬(工員及傭員ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ヲ「文官等(文官同待遇者、傭託者、雇員、傭人及工(傭)員ヲ謂フ以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第六條中「海軍軍人又ハ軍屬」ヲ「文官等」ニ改ム
第七條 第四條ノ從軍中ノ者トハ外地ニ在ル者及艦船乗員(陸上ニ在ル豫備員ヲ含ム)ヲ謂フ
第八條 支出官及出納官吏ハ昭和二十一年一月一日在籍者ニ付第五條及第六條ノ規定ニ依リ定メタル分類所得稅月額納稅額ヲ昭和二十一年二月末日迄ニ第二復員省經理局長ニ通

第二復員省公報 第二〇號 昭和二十一年一月八日

五

報スルモノトス

第九條 第二復員省經理局長ハ別ニ定ムル所ニ依リ分類所得
税ノ年額ノ十二分ノ十ヲ昭和二十一年三月末日迄ニ歳入ニ
納付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十一條中「海軍省經理局長」ヲ「第二復員省經理局長」ニ
改ム

附則第二項及第三項ヲ削ル

附則

本達ハ昭和二十年十二月一日ヨリ之ヲ適用ス

○通牒

二復經理局主第七號ノ一〇

昭和二十年十二月三十一日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

國庫納金納付手續特例ニ關スル件外一件中改
正ノ件通牒

一 昭和二十年經給第九三號中「今般達第一一九號ヲ以テ大東
亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例（以下特例ト稱ス）ヲ定メ
ラレ」ヲ「今般達第二〇號ヲ以テ第二復員部内國庫納金納付
手續特例（以下特例ト稱ス）ヲ改正セラレ」ニ改メ同號ニ左
ノ一號ヲ加フ
三 特例第四條ノ規定ニ依ル歳入ノ納付ニ付テハ追テ定メラ

ル

二 昭和二十年經給第九七號中左ノ通改正ス

「大東亞戰爭海軍所得稅徵收手續特例」ヲ「第二復員部内所得
稅徵收手續特例」ニ改ム

第一號中「軍人軍屬」ヲ「者」ニ改ム

第二號（ロ）中「（加給ヲ除ク）」ヲ削リ同號（ハ）ヲ左ノ如ク改ム

（ハ） 特例第九條ノ規定ニ依ル歳入ノ納付ニ付テハ追テ定メ

ラル

第二號（ニ）中「臨時家族手當ノ加給及」ヲ削ル

第三號（ハ）中「海軍軍人軍屬」ヲ「文官等」ニ改メ同號（ニ）中但
書ヲ削ル

附則

別紙様式中不具ナル部分ニ付テハ適宜變更スルコトヲ得

第二復員省公報 第二〇號

昭和二十一年一月九日(水)

復員大臣官房

○令 達

達第一九號
艦船乘員休暇及上陸規則左ノ通定ム

昭和二十年十二月二十九日

第二復員大臣

艦船乘員休暇及上陸規則

第一條 特別輸送艦船ノ乘員ノ休暇ハ左ノ各號ニ依ルノ外海軍
軍人軍屬休暇規則ヲ適用ス

一 艦船左ノ標準ノ行動ヲ終リタルトキハ約十五日間ノ整備
休養期間ヲ與フ

(イ) カロリン、マリアナ及比島方面 連続三往復

(ロ) マーシャル、ニューギニア、南東及南西方面 連続二
往復

(ハ) 上海、臺灣、小笠原方面 連続七往復

(ホ) 南鮮方面 連続一四往復

(ニ) 其ノ他別ニ定ムル行動

前項ノ期間中艦船長ハ其ノ定ムル所ニ依リ勤務員ノ二分ノ一
以內宛輪番休暇ヲ許可スルコトヲ得

二 運航成績拔群ナル艦船乘員ニ對シテハ所屬長官又ハ運航
ヲ指揮スル長官ハ其ノ定ムル所ニ依リ適宜休暇ヲ許可スル

コトヲ得

三 運航成績不良ナル艦船乘員ニ對シテハ所屬長官又ハ運航
ヲ指揮スル長官ハ其ノ定ムル所ニ依リ適宜第一號ノ休暇ヲ
制限シ又ハ之ヲ許可セザルコトヲ得

第二條 掃海艦船ノ乘員ノ休暇ハ海軍軍人軍屬休暇規則ヲ適用
ス

第三條 特別輸送艦船及掃海艦船ノ乘員ノ上陸ハ各艦船ニ於テ
其ノ業務、保安及紀律ノ保持ニ支障ヲキ限リニ於テ之ヲ許可
シ以下諸條ニ定ムルモノノ外艦船長(掃海支部所屬ノ特務艇
ニ在リテハ同支部長)ノ定ムル所ニ依ル

第四條 上陸ハ左ノ場合ニハ之ヲ許可スルコトヲ得ズ
一 衛生上支障アリト認ムル場合

二 艦船ニ傳染病發生シ蔓延ノ徵アル場合(當該勤務者ニ限
ル)

三 其ノ他必要ト認ムル場合

第五條 上陸中罹病、變災等ノ爲許可セラレタル期間内ニ歸投
シ能ハザル者ハ其ノ旨艦船長ニ電報シ直ニ事由ヲ具シ其ノ延
期ヲ出願スベシ此ノ場合醫師ノ診斷書又ハ關係官公吏ノ證明
書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條 復員官及復員官補(判任二等以下ノ者ヲ除ク)ノ上陸

七

第二復員省公報 第二〇號 昭和二十一年一月九日

七

1612

ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得
一 其ノ四分ノ三以内

二 日曜日、休日其ノ他ノ公暇日ニ於テハ式後又ニ之ニ準ズル時刻ヨリ、土曜日ニ於テハ午前終業時ヨリ各翌朝始業時迄

三 前號ノ外課業時間外適宜ノ時間

第七條 復員官補(判任官一等ノ者ヲ除ク)雇員及傭人ノ上陸

ハ左ノ三種トス

一 入湯上陸

二 半舷上陸

三 臨時上陸

第八條 入湯上陸ハ全員ノ三分ノ二以内宛夕食後ヨリ翌朝食迄ノ間ニ於テ輪番ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 半舷上陸ハ日曜日、休日其ノ他ノ公暇日ニ於テハ式後又ハ之ニ準ズル時刻ヨリ、土曜日ニ於テハ午食後ヨリ夕食迄勤務員ノ三分ノ二以内ニ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ半舷上陸ヲ爲スベキ者當日入湯上陸番ニ當ルトキハ引續キ之ニ入湯上陸ヲ許スコトヲ得

土曜日及日曜日ノ兩日上陸番ニ當ルトキハ儀式又ハ作業ナキ場合ニ限り土曜日午食後ヨリ月曜日朝食迄引續キ之ニ上陸ヲ許スコトヲ得

第十條 臨時上陸ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

一 艦船内地ヲ發シ航泊日數ヲ通ジ一月以上ノ航海ヲ爲シ再

ビ内地ニ歸著スルトキ其ノ發著ノ前後ニ於テ各二十四時間以内

二 掃海作業引續キ二週間以上ニ及ブ場合一週間ニ付二十四時間以内

三 善行表彰ヲ受ケタル者、拔群ノ勤務ヲ爲シタル者又ハ已ムヲ得ザル事故アル者ニハ二十四時間以内

四 前條ノ半舷上陸日ニ於テ特ニ實施スル作業等ニ從事シ當日ノ半舷上陸ヲ許可セザリシ者ニハ十時間以内

第十一條 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニハ出獄ノ日より一月以上上陸ヲ許サザルヲ例トス

第十二條 患者ニシテ輕業又ハ休業ヲ命ゼラレタル者ニハ上陸ヲ許サザルヲ例トス但シ必要アルトキハ臨時適宜ノ時間ヲ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 各艦船ニ於テ勤務員ニ輪番休暇ヲ許シタルトキハ殘員ニハ其ノ二分ノ一以内ニ限り課業時間外適宜ノ時間上陸ヲ許スコトヲ得

○ 通 牒

二復經理局與八第一號

昭和二十年十二月二十二日

第二復員省總務局長
第二復員省經理局長

各地方復員局總務部長 殿
各地方復員局經理部長 殿
在外地徵備船及配當船ノ處理、並ニ乙船員ノ給與取扱ニ關スル件申進
首題ノ件左記ニ依リ處理相成度

記

一 在外地船船全損補償區分

(イ) 徵備船

昭和二十年八月十五日現在、在外地徵備船ニ對シテハ昭和二十年十二月三十一日迄備船料ヲ支拂ヒ同日附全損補償處分スルモノトス但シ將來聯合國側ヨリ日本政府ニ返船アリタル場合ハ元船主ニ優先有償拂下等ノ處置ヲ講ズルモノトス

(ロ) 配當船

昭和二十年八月十五日現在、在外地配當船ニ對シテハ昭和二十年九月三十日迄備船料ヲ支拂ヒ同日附關係保險會社ニ於テ全損處分スルニ付申請ヲ俟ツテ所要ノ證明ヲ爲スモノトス

二 在外地乙船員給與區分

(イ) 徵備船

乙船員ヨリ甲船員ニ切替未済ノモノハ乘組船船全損處分ノ翌日附ヲ以テ甲船員ニ切替手續ヲ爲シ内地歸着ノ日ヲ以テ徵備解除スルモノトス

(ロ) 配當船

第二復員省公報 第二〇號 昭和二十一年一月九日

從來通船船運營會ニ於テ給與ヲ處理ス

註 甲船員トハ海軍ニ於テ直接給與ヲ支給スベキ者

乙船員トハ船主又ハ船船運營會ヲ通シ給與ヲ支給スベキ者ヲ謂フ

○ 雜 款

○ 事務開始

當所ヲ十二月二十日鹿兒島市六日町(鹿兒島無盡會社三階)内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(鹿兒島上陸地連絡所)

横須賀地方復員局人事部浦和支部ヲ十二月十四日浦和市常盤町

四丁目(舊浦和聯隊區司令部)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(横須賀地方復員局人事部)

○ 移轉

當部ハ十二月二十七日左ニ移轉セリ

名古屋市東區白壁町二丁目二番地(舊水交社内)

電話 東一〇八二番

(名古屋地方復員人事部)

○ 電話番號變更

第二復員省總務局長山本善雄宅

第二復員省公報 第二〇號 昭和二十一年一月九日

(杉並區高圓寺二ノ四四三)

新 中野二七七〇番
舊 中野七七〇七番

○正誤

一月八日附第二復員省公報「第二〇號」ハ「第一九號」ノ誤

一〇

1615

第二復員省公報 第二一號

○令 達

内令第一號
昭和二十年内令第七號中左ノ通改正ス

昭和二十一年一月五日

第二復員大臣

表中大阪地方復員局掃海部大阪支部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄
「阿津丸」ヲ削ル

内令第二號

大阪地方復員局所管

掃海船 阿津丸

掃海船ヲ解ク
昭和二十一年一月五日

第二復員大臣

内令第三號

横須賀地方復員局所管

特別輸送艦 驅潛第四十七號

右特別輸送艦ヲ解ク

昭和二十一年一月五日

第二復員大臣

昭和二十一年一月十日(木)

第二復員大臣官房

内令第四號

汽船 桑 榮 丸

同 東 亞 丸

同 わかくさ丸

同 榮 昌 丸

右掃海船トシ吳地方復員局所管ト定ム

昭和二十一年一月十日

第二復員大臣

官房總第三號

俘虜虐待者査問委員會規程中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

第一條中「海軍部内」ヲ「第二復員部内」ニ「海軍省内」ヲ「第二復員省内」ニ改ム

第二條中「軍務局長」ヲ「總務局長」ニ「軍令部第三部長」ヲ

「臨時調査部長(幹事)」ニ「終職委員會第七分科會委員(竹内少

將ヲ幹事トス)」ヲ「榎本復員官」ニ改ム

第四條中「海軍大臣」ヲ「第二復員大臣」ニ改ム

第五條中「委員ハ」ノ下ニ「委員長ノ命ヲ承ケ」ヲ加フ

第二復員省公報 第二一號 昭和二十一年一月十日

第二復員省公報 第二號 昭和二十一年一月十日

第九條 委員長ハ各事件毎ニ所要ノ職員ヲ指定シ小委員會（首席職員名ヲ冠稱ス）ヲ組織シ調査及査問ヲ行ヒ議案及報告ヲ作製セシムルコトヲ得

（九月二十七日海軍公報参照）

一三

1617

第二復員省公報 第三號

昭和二十一年一月十一日(金)
第二復員大臣官房

○通牒

二復管理局主第七號ノ一

昭利 二月三十一日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

第二復員省關係勤務員ノ給與等ニ關スル件通知

首領ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 人事局長 經理局長

宛 關係各廳長

一八〇〇番電

解員又ハ整理セラレタル者就職シタル場合年

末賞與支給上勤務日數通算ノ件

海軍軍人軍屬ニシテ十一月二十九日以前ニ解員又ハ整理セラレ

タルモノ第二復員部内各廳ニ就職シタル場合ハ本月十五日附年

末賞與支給ニ付テハ其ノ前後ノ勤務日數ハ之ヲ通算シ差支ナキ

モ十月以前解員又ハ整理セラレタル者ニシテ十二月分及一月分

ノ俸給ノ戻入ヲ要セザルモノハ二月分ヲ、十二月分ノミノ俸

給ノ戻入ヲ要スルモノハ一ヶ月分ヲ夫々當該賞與額ヨリ減額支

給スルコトニ定メラル

(註) 戻入ヲ要スル俸給ハ右ノ減額支給賞與額ヨリ控除處理
スルモノトス

發 大 臣

宛 部内一般

第一〇一三三二番電

海軍軍人ノ解員ニ付給與等ニ關スル件中改

正ノ件

本年機密第二二二三三〇番電海軍軍人ノ解員ニ付給與等ニ關

スル件(九月六日公報参照)中第二號(退職賞與)ヲ削リ昭和

二十年十一月二十四日以後之ヲ適用ス

發 經理局主計課長

宛 各地方復員局經理部主計課長

第二四一五〇四番電

武官ヨリ轉官ノ復員官ノ國庫納金控除ニ關ス

ル件

軍人ヨリ復員官又ハ復員官補トナリタル者ノ國庫納金ハ復員官

及復員官補トシテ從來ノ俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セラルルニ至

リタル月ヨリ文官トシテノ國庫納金ヲ控除スルモノトス

○雜 款

第二復員省公報 第三號 昭和二十一年一月十一日

一三

○移轉

當部八十二月二十七日名古屋市東區白壁町二丁目二番地(舊水交社内)ニ移轉セリ

(名古屋地方復員人事部)

當部八十二月十七日廣島縣佐伯郡大竹町(舊海軍潛水學校潛水隊廳舍)ニ移轉セリ

追テ郵便物ハ左記ニ送付相成度

記

廣島縣佐伯郡大竹町大竹郵便局氣付

吳掃海支部

(吳掃海支部)

當部天總分室八十二月二十四日吳ニ復歸セリ

(吳地方復員局人事部)

1619

第二復員省公報 第三號

庶務主任

昭和二十一年一月十五日
第二復員大臣
官房

○令 達

逓送號
當分の間各廳長ハ毎月一日左記様式ニ依リ當該廳ノ現状報告ニ
通テ調製シ速ニ第二復員大臣及所屬ノ復員局長官ニ各別ニ直接

復員省各局現状報告

官 房		事 項						高 等 官	判 任 官	嘱 託 員	備 員	人 計
施本整理部	航本整理部	艦本整理部	醫務部	連絡部	調査部	史實調査部	需品部					

第二復員省公報 第三號 昭和二十一年一月十五日

一五

1620

局	事	項	高等官	判任官	嘱託員	備人	計	備考	法務局		經理局			人事局			總務局				
									契約課	會計課	主計課	業績課	扶助課	補任課	掃海課	艦船運航課	總務課	電信課	庶務課		
總務部								應召軍人タル者ハ各其ノ欄ニ區分明示スルコト (昭和 年 月 一日)													

1621

局 艦 船 情 況				現		備	地方復員局																																			
				行動中	故障中		備	考	人	需	經	艦	掃	管	法	各	各	各	各	各	各	各	各																			
特別 輸送 艦船	艦 船 名	噸	數	速	力	狀	乘 員 數	判 任 下 官	應召軍人タル者ハ各其ノ欄ニ區分明示スルコト																																	
									人	需	經	艦	掃	管	法	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方	各地方																	

(別表)

(昭和二十一年一月十六日第二復員省公報)

考 備	掃海船(試航船)定員表																	
	船長	機關長	航海長	軍醫長	主計長	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組	計	榮昌丸	榮丸	東亞丸	わかくさ丸
一 乗組復員官又ハ復員官補タル特務士官、准士官二人ノ中一人ハ掌機長ニ充ツ	大復員中員	中復員少員	少復員佐、大尉官	復員少員、大尉官	復員少員、大尉官	復員士官又ハ復員官補	復員士官又ハ復員官補	兵員	同	同	同	同	同	六十二人				
二 復員官補タル下士官ノ定員ニハ當該科ノ兵ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得								兵員						五十七人				
三 復員官補タル機關兵曹ノ定員中機械及罐ニ各九人、電機ニ三人ヲ配スルモノトス								兵員						六十二人				
四 掃海ニ從事スル際ハ必要ナル人員ヲ在船セシムルモノトス								兵員						五十七人				
五 本表ノ定員ニハ固有ノ船員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ船長ニ固有ノ船長ヲ以テ充ツルトキハ本表ノ外特設運送船ニ準ジ指揮官復員官大中佐一人ヲ置クコトヲ得								兵員						五十七人				

別表

考 備	品料飲	品用理調及味調	品 食 副	品食主	類 別	
					品 種	日 額
一 本表ノ量額ハ最上限ノ給與量額ヲ示ス 二 本表ノ糧食品ニシテ規定ノ品種ヲ得ルコト困難ナルトキ其ノ他換給ノ必要アルトキハ昭和二十年十二月一日官房需第二號別表第二ノ規定ニ依リ換給スルコトヲ得	茶	塩味植醬豆 物 噲油油類	舊新 生骨骨 付付 漬漬 野生 生 魚 獸 物物 菜肉 肉	麥米 一〇〇〇 二〇〇〇瓦	糧 食	給 與 量 額 表
	〇・三	〇〇一七立 〇〇〇一 二二瓦 一六	又ハ 一〇〇〇 一六八 五〇〇 一〇〇 九〇	一〇〇〇 二〇〇〇瓦		
			骨付生獸肉及骨付生魚肉ハ隔日交互ニ之ヲ給ス	一月一日、二日、三日ノ三日間ハ一日ニ付餅五〇瓦又ハ糯米三五瓦ヲ特ニ増給スルコトヲ得	記 事	

(昭和二十一年一月十六日第二復員省公報)

第二復員省公報

第二五號

○通牒

復員人事局第一號ノ一八
昭和二十一年一月十六日

第二復員省人事局長

關係各廳長殿

終戦後ノ死歿區分ニ關スル件通牒

首題ニ關シ左記ノ通定メラレ候

内務省
陸軍省
海軍省
逓信省
文部省
農林省
商工省
厚生省
復員省
警察省
裁判所
支那駐留軍
朝鮮駐留軍
南洋駐留軍
收

一 掃海艦艇乗員ニシテ直接該業務ニ 因リ死亡シタル者	戰(傷)(病)死
二 引揚輸送中觸雷ニ因リ死亡シタル 輸送艦船乗組員及乗船中ノ軍人軍屬	公務死
三 聯合軍ノ命令ニ依リ作戰行動ヲ取 リ交戦中死亡シタル者	戰死ニ準ズル扱
四 自衛ノ爲匪賊等ト交戦死亡シタル	

第二復員省公報 第二五號 昭和二十一年一月十七日

昭和二十一年一月十七日(木)
第二復員大臣官房

者	戰死ニ準ズル扱
五 昭和二十年九月二日以前戦傷ヲ受 ケ之ニ起因シ死亡シタル者	戰傷死
六 昭和二十年九月二日以前戦病ニ罹 リ之ニ起因シ死亡シタル者(戦地勤 務三箇月以上ニ及ビタル者内地歸還 後六箇月以内ニ結核性疾患發病セル モノヲ含ム)	戰病死
七 帝國以外ノ地(朝鮮、臺灣、樺太 ヲ含ム)ニ於テ公務執行中傷病ヲ受 ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル 者	公務死
八 帝國以外ノ地ニ於テ傷病ヲ受ケ又 ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル者ノ 中前號ニ該當セザルモノ	非公務死

○雜款

○事務開始
當支部ヲ十二月二十五日左記ニ設置シ事務ヲ開始セリ

記

二二

山梨縣甲府紅梅町二十一番地

(甲府勤勞署内 電話甲府二七八一番)

(中央線甲府驛ヨリ徒歩約五分縣廳前)

(横須賀地方復員局人事部甲府支部)

○轉官

舊官	氏名	新官	轉官月日	記事
第二復員技師	塚本和三雄	地方技師	十二月十日	
第二復員官	柴田逸平	地方事務官	十二月十四日	
第二復員技師	林貫一	農林技師	十二月二十三日	
海軍技師	歌野實	商工業試驗所技師	十一月二十六日	

○取消

左記ノ者ハ十二月三十日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消サレタリ

記

- 海軍軍醫中佐 原田昌雄(一四)
- 同 菊地楨太郎(三三)
- 同 木曾勝人(三五)
- 同 高橋謙二(三六)
- 海軍軍醫少佐 越智泰澄(三三)

- 海軍軍醫中尉 小山幸男(三六)
- 海軍藥劑大尉 寺村義之進(二七)
- 海軍藥劑中尉 久慈光亮(二六)
- 海軍藥劑少尉 永利裕生(二五)

第二復員省公報

第二六號

昭和二十一年一月二十二日(火)

第二復員大臣官房

○ 令 達

海軍工員規則中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月二十二日

第二復員大臣

題名「海軍工員規則」ヲ「第二復員部内工員規則」ニ改メ同規則中「海軍工員作廳長」ヲ「管業部長」ニ改ム

第四十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

入門ヨリ出門迄ノ時間ヲ服業定時間(以下單ニ定時間ト稱ス)間四十分トス

内令第六號

掃海船(試航船)ニ指揮官ヲ置ク場合指揮官ハ掃海隊司令、船長ハ掃海隊ノ掃海艇長ニ準ジ服務スルモノトス

昭和二十一年一月十日

第二復員大臣

内令第七號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

第二復員省公報 第二六號 昭和二十一年一月二十二日

昭和二十一年一月二十日

第二復員大臣

第二魚雷艇隊ノ項ヲ削ル(附屬ノ魚雷艇全部除籍)

内令第八號

横須賀地方復員局所管

特別輸送船 栗 橋

右特別輸送船ヲ解ク

昭和二十一年一月二十日

第二復員大臣

○ 通 牒

二復人事局扶第一號ノ六

昭和二十一年一月十七日

第二復員省人事局長

各地方復員局人事部長

各地方復員局人事部長

各地方復員局人事部長

各地方復員局人事部長

公傷病再發患者厚生省所管國立病院收療ニ關スル件通牒

二三

昭和十五年勅令第二百六十六號軍人軍屬公務ニ起因シタル傷疾疾病治療ノ後再發シタル者治療ノ件第一條ニ據リ海軍又ハ陸軍ノ病院ニ收容セラレ官費治療ニ浴シ得ベキ者ハ海陸軍病院ノ業務ヲ繼承シタル厚生省所管國立病院ニ顯出テ治療シ得ラルベキニ付該當者ノ救療ニ關シ萬遺漏ナキ様取計相成度
追テ外地歸還軍人軍屬ニシテ戰地又ハ歸還途中或ハ歸郷後疾病ニ罹リタル者モ國立病院ニ官費ニテ治療シ得ラルベキニ付含置相成度

(参照) 昭和十五年勅令第二百六十六號 諸例則卷三 九七〇ノ三頁
厚生省所管國立病院ノ名稱及位置等 昭和二十年十二月二十一日官報

○雜 款

○郵便物發送先
福岡縣福岡市 博多郵便局氣付
特別輸送艦 室津丸

(特別輸送艦室津丸)

○移轉
當班(舊海軍航空本部會計部)ハ十二月十六日左ニ移轉セリ
東京都品川區上大崎長者丸第二復員省第一分室(舊海軍大學校内)

電話番號 大崎 三一一—三一一五

(第二復員省經理局契約課航空班)

○取消
左記ノ者ハ十二月三十日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消サレタリ

記

- 海軍軍醫中佐 宮城 桃 郁 (三三四)
- 海軍軍醫大尉 河村 正 之 (二〇七五)
- 同 時政 希 典 (二九九四)
- 同 鈴木 洋 三 (二〇三二)
- 同 有馬 郁 也 (二〇四八)
- 同 服山 敏 雄 (二〇九六)
- 海軍軍醫中尉 陣内 大 丈 夫 (二九三六)
- 同 藤 田 博 (二九四四)
- 同 塚 本 亮 (二九四四)
- 海軍軍醫少尉 須崎 映 一 (三三三六)
- 海軍藥劑少佐 宮 崎 豊 (ヤ 三三)
- 海軍藥劑大尉 三 木 康 平 (タ 七三)
- 同 鳥 山 新 一 (タ 八三)
- 同 鈴木 榮 二 郎 (タ 一〇二)
- 同 瀧 田 久 康 (タ 一一二)

第二復員省公報 第二七號

昭和二十一年一月二十四日(木)

第二復員大臣官房

○令・達

第二復員次官

部

廣人第三五號

昭和二十年官房人第五〇九號及同第五一〇號ニ依ル召集者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズシテ昭和二十年十二月三十一日附召集ヲ解除セラルベシ

庶務課

昭和二十一年二月三十一日

第二復員大臣

○通牒

主計

昭和二十一年一月二十三日

第二復員次官

内務

各地方復員局長官殿

各地方復員局長官ハ協議アリタル場合要スレバ復員者扶助業務ニ關シ部下地方復員人事部又ハ同支部ヲシテ當該地方復員局長官ノ區處ヲ承クル如ク取計ハレ度

官房人第七號

昭和二十一年一月二十三日

第二復員省公報 第二七號 昭和二十一年一月二十四日

關係各所屬長官殿

靖國神社合祀未済ノ者調査ニ關スル件通牒

支那事變又ハ大東亞戰爭ニ關シ昭和二十年九月二日迄ニ死歿シタル海軍軍人軍屬等ニシテ靖國神社合祀關係書類未提出ノモノハ昭和十九年官房人機密第一六二九號訓令ニ準ジ成ルベク速ニ本省ニ提出相成度尙合祀手續洩防止ノ爲各地方復員局長官ハ別票ヲ管下各市町村長ニ通達シ合祀未済ノ海軍軍人軍屬ヲ調査作成セシメ地方復員局ヲ經テ第二復員省ニ提出セシメラレ度

追テ戸籍抄本(戸籍記載事項證明書)ノ添附及合祀名簿死亡證明書類ノ同一事故ニ因リ一時ニ多數死歿シタル場合ノ如キハ該書類第何號参照ノ如ク記載シ死亡事由ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

(別票添)

- 一 昭和二十年九月三日以後ノ死歿者ハ別途詮議ノ豫定
- 二 別票ハ請求ヲ俟テ配付ス

二復經理局契九第二號ノ五〇

昭和二十年十二月一日

二五

第二復員省經理局長

關係各所(局長) 特別輸送艦艇長(殿)

日用品等配給品種標準ニ關スル件通知

昭和二十年十二月十七日二復經理局第一號ヲ以テ通牒ノ中央統制日用品ノ配給品種並ニ配給標準ヲ別表ノ通定メタルヲ以テ可然取計相成度

追而内地物資窮迫ノ實狀ニ鑑ミ引揚軍官民ノ物品所持狀況並ニ終戰事務從事者ノ任務等ヲ考慮シ必要最少限ノ配給ニ止ムル様物資ノ節約ニ留意相成度
(別表添) 添付

○ 雜 款

○ 移 轉

當班ハ一月十六日左記ニ移轉セリ

記

一 場所 東京都品川區上大崎長者丸

第二復員省第一分室(舊海軍大學校廳舎二階)

電話 第二復員省交換 二二六七 三〇九〇

(註) 第二復員省電話

銀座(57) 三一一一 三一一九

八一一一 八一一九

二 順路 省線、都電、目蒲線何レモ目黒驛下車徒歩約五分

(第二復員省經理局契約課航空班(舊海軍航空本部會計部))

當部ハ一月十七日栃木縣河内郡委川村(宇都宮市外舊陸軍第四部隊跡)ニ移轉セリ

郵便物發送先 宇都宮市軍道

(宇都宮地方復員人事部)

○ 訂 正

舞鶴地方復員局法令第八號第三條表ヲ左ノ通訂正セラル

東 舞 鶴 驛	東 京 驛
(木) 一〇四三發 ↓(金) 〇六四〇着	
(土) 〇八〇九着 ↑(金) 一五二五發	
備考 列車時刻ニ依リ變更スルコトアリ	(舞鶴地方復員局總務課長)

○ 取 消

左記ノ者ハ十二月三十日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消セラレタリ

記

海軍藥劑少尉 植栗 與夫(一孝)

海軍齒科醫大尉 塚本 二郎(四)

(別票)

靖國神社未合祀者申告票

(昭和二十一年一月二十四日第二復員省公報)

官等	生年月日	死	受傷(發病)		死		應召(入團)年月日	應召(入團)部隊名	死亡時所屬部隊名	外地出征ノ有無	參考事項	遺		死者トノ續柄及氏名
			場	年月日	場	年月日						現	本	
		死	場	年月日	場	年月日						現	本	死者トノ續柄及氏名
		死	場	年月日	場	年月日						現	本	死者トノ續柄及氏名

右ノ通相違無之候也

市(區)町村長 氏

名 印

調製上ノ注意

- 一 官等ハ死歿後進級セル者ハ其ノ官等進級月日ヲ記載スルモノトス
- 二 死歿區分ハ戰死、戰傷死、戰病死等ノ區分ヲ記載シ認定死亡者ハ其ノ旨記載スルモノトス
- 三 在郷間ノ死歿者ニ在リテハ召集解除(兵免等)及再發ノ年月日等ヲ參考事項欄ニ記載スルモノトス
- 四 不明ノモノハ不明ト記載スルモノトス
- 五 毛筆又ハペン書トス

第二復員省公報 第二八號

昭和二十一年一月二十五日(金)

第三復員大臣官房

庶務主任

○令 達

部

内令第九號
昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十一年一月十日

第二復員大臣

庶務

大島防備隊ノ項ヲ削ル

内令第一〇號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十一年一月十日

第二復員大臣

大島防備隊ノ項ヲ削ル

内務

内令第二一號

收

右特設驅潜艇トシ佐世保地方復員局所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船會文丸
同 報國丸
同 姫島丸
同 寶永丸
同 第八長運丸

同 新浦丸
同 第七利丸

右特設掃海艇トシ佐世保地方復員局所管ト定メタル處之ヲ解ク
昭和二十一年一月十日
第二復員大臣

内令第一二號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十一年一月二十二日

第二復員大臣

第四十二警備隊ノ項ヲ削ル

内令第一三號

漁船 第二春日丸
同 白鷗丸

右特設監視艇トシ横須賀地方復員局所管ト定メタル處之ヲ解ク
昭和二十一年一月二十二日
第二復員大臣

○雜款

○移轉

第二復員省公報 第二八號 昭和二十一年一月二十五日

二七

1633

當支部ハ一月十七日東京都芝區田村町一丁目日産館ニ移轉セリ
(横須賀地方復員局人事部東京支部)

○取消
左記ノ者ハ十二月三十日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消シ
レタリ

記

海軍軍醫中佐	萱嶋 一男(三三)
同	小藤田秀輔(三四)
同	片山 循之(四九)
海軍軍醫少佐	藤井 豊(四六)
同	内尾 毅(四九)
同	藤田 彌(七四)
同	神寶 定吾(七五)
同	藤原 元典(九七)
海軍軍醫大尉	大島 勇(二三)
同	傳法 強(二五)
同	松田 源彦(二七)
同	眞鍋 達城(三八)
同	植木 董(三五)
同	稻垣 進也(九三)
同	富崎 季夫(〇三)
海軍軍醫中尉	山川 弘(〇六)

同	中川 正紀(二六)
海軍軍醫少尉	戸川 智(三三)
海軍藥劑少佐	林 良三(ヤ四)
海軍藥劑中尉	有田淳一郎(ヤ四)
同	松浦 昇(ヤ五)
同	林 國治(ヤ六)
同	井上 哲男(ヤ六)
同	小畑 繁雄(ヤ七)
同	佐久間 彰(ヤ七)
海軍齒科醫中尉	田中 武臣(八九)

第二復員省公報 第二九號

昭和二十一年一月二十八日(月)
第二復員大臣官房

○令 達

内令第一四號

吳地方復員局所管
特別輸送艦 高 根
佐世保地方復員局所管
同 海第二百二十五號

右特別輸送艦ヲ解ク
昭和二十一年一月二十五日

第二復員大臣

○通 牒

人事局扶第三八號ノ二
昭和二十一年一月十七日

第二復員省人事局長

各地方復員局人事部長、同支部長
各地方復員人事部長、同支部長 殿

勤勞署勤務員ノ取扱ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シテハ、茲ニ二復員人事局扶第三八號ヲ以テ照會致シ
置キ候處左記ノ通差當リ決定致候ニ付可然御取計相成度

記

第二復員省公報 第二九號 昭和二十一年一月二十八日

一 勤勞署ニ派遣中ノ人員ハ二月一日以降三月末日迄各人事部
及同支部ノ臨時囑託トシ之ヲ從來通勤勞署ニ派遣スルコトト
シ右經費ハ第二復員省費ヲ以テ支辨ノコトニ定メラル
二 右人員ノ本年四月以降ノ取扱ニ就テハ決定次第通知ス
三 職業輔導協會(仮稱)設立シ之ニ肩代スル件ニ關シテハ決
定次第通知ノコトトス

二復員省經理局主第六號ノ二

昭和二十一年一月二十五日

第二復員省經理局長

關係各廳長 殿

郵便貯金通帳ノ輸入制限解除ノ件通知

首題ノ件ニ關シテ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

宛 關係各廳長

第一七一〇四七番電

郵便貯金通帳ノ輸入制限解除ノ件

一 今般本邦、朝鮮、臺灣、關東州又ハ北支那ニ於テ日本政府
ノ發行シタル郵便貯金通帳(軍事郵便貯金通帳ヲ除ク)ノ輸
入制限免除セラレ共ノ本邦外ニ於テ發行セラレタルモノニ付

二九

テハ一家族ヲ通ジ一箇月五百圓以内ノ拂戻ヲ認メラルコトトナレリ尙本邦引揚者ニシテ上陸ノ際右通帳ヲ海運局ニ預託セシメラレタルモノニ對シテハ請求ニ依リ之ヲ預託者ニ返還セシメラル

一 軍事郵便貯金通帳ニ付テハ目下本邦ニ携帶引揚ノ際上陸地ニ於テ海運局ニ預託セシメラレツツアルモ近ク聯合軍ヨリ其ノ輸入ヲ許可セラレ海運局ノ預託解除セラルル見込ナリ但シ外地預金額ノ拂戻ニ對シテハ一定限度以上ハ現地ノ實情ニ應ジ適當ニ規制セラルル豫定

○雜款

昭和二十一年一月二十五日

東京都目黒區上大崎二丁目
第二復員省第一分室内

海軍 義濟會
海軍 信義會

義濟會並ニ信義會々々員ノ離現役交付金請求手續ニ關スル件通知

復員セラレタル義濟會々々員並ニ信義會々々員ニシテ離現役交付金未請求ノ向ハ左記様式ニ依リ請求書提出セラレ度尙送金ハ振替貯金現金拂ヲ以テ送金可致ニツキ最寄郵便局名記入相成度
追テ義濟會及信義會ハ十二月三十一日ヲ以テ解散セラレ候ニ付テハ清算ノ上捐金等ノ殘餘財産ハ夫々會員ノ離出額ニ應ジ戻可相成ニツキ此旨御諒知有之度申添候

(様式)

昭和 年 月 日
住所 官氏名

海軍義濟會(海軍信義會)御中

離現役交付金請求書

小官儀昭和 年 月 日豫備役被仰付候ニ付財團法人海軍

義濟會(海軍信義會)寄附行爲ノ規定ニ依リ此段請求候也

追テ交付金ハ左記郵便局ニ於テ受領致シ得ル様御取計相成度

、、、郵便局

(備考) 現官進級年月日 昭和 年 月 日

○移轉

當連絡所復員部事務所ハ一月十九日福岡市舊柳町三六一番地ニ移轉事務ヲ開始セリ

(佐世保地方復員局博多上陸地連絡所)

第二復員省公報

第二〇號

昭和二十一年一月三十日(水)
第二復員大臣官房

〇令 達

官房經第二號

第二復員省所管一般會計歲出科目中左ノ通追加ス

昭和二十一年一月二十八日

第二復員大臣

項	目	節	解	疏
(行政費)				
物價手當				
			昭和二十年達第一八號ニ依リ給スル分	

官房經第三號

第二復員省所管各部ノ經費等ノ取扱ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十一年一月二十八日

第二復員大臣

出納官吏ノ新設、變更、廢止等ヲ要スル場合ハ第二復員省
 經理局長(以下經理局長ト稱ス)之ヲ任免スルモノトス
 二 艦船部隊其ノ他各部(以下各部ト稱ス)ニシテ經費掌理者
 ヲ指定セラレザル爲支障アル場合ニ於テハ所管地方復員局經

第二復員省公報 第三〇號 昭和二十一年一月三十日

理部長(以下經理部長ト稱ス)ヲ經テ經理局長ニ協議ノ上當
 該各部ニ勤務ノ主計科准士官以上(同武官ヨリ任用セラレタ
 ル文官ヲ含ム)ノ者ヲシテ之ヲ給與其ノ他ノ經費支拂ヲ掌理
 セシムルコトヲ得當該出納官吏ノ變更、廢止等ヲ要スル場合
 ハ之ヲ任免ニ關シ所管經理部長ヲ經テ經理局長ニ協議スベシ
 三 前號ニ該當スルモノヲ除ク外經費掌理者ノ設置セラレザ
 ル各部ノ給與其ノ他ノ經費支拂ハ所管地方復員局經理部(以
 下經理部ト稱ス)ニ於テ之ヲ掌理スルモノトス但シ當該經理
 部長必要アリト認ムルトキハ最寄各部ノ廳長ト協議ノ上其ノ
 經費掌理者ヲシテ之ヲ掌理セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
 ハ當該經理部長之ヲ經理局長ニ通知スベシ
 前項ニ該當スル場合ニ於テハ當該各部ノ長ハ給與計算ノ資料
 タル共ノ屬ノ通達簿寫又ハ之ニ準ズベキモノヲ經費掌理者ニ
 送付スルモノトス
 四 經理部又ハ經理部所在地以外ノ地ニ在ル各部ノ經費掌理者
 ハ所在地及其ノ附近出入ノ艦船又ハ經費掌理者ト同所ニ在ラ
 ザル爲著シク支障アル最寄各部ヨリノ要求ニ應ジ其ノ給與其
 ノ他ノ經費支拂ヲ臨時掌理スルコトヲ得
 經理部其ノ他各部ノ經費掌理者前項ノ經費支拂ヲ爲シタルト
 キハ支拂證據書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨速ニ原經費掌理者ニ通知

物價手當 昭和二十年達第一八

號ニ依リ給スル分

ヌン

○ 通 牒

二復經理局主第二號ノ四

昭和二十一年一月二十三日

第二復員省經理局長

支出官、各資金前渡官吏殿

臨時物價手當支辨科目ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 經理局長

宛 支出官、各資金前渡官吏

第二一〇〇八番電

昭和二十年達第一八號ニ依リ支給ノ物價手當ハ、カ、(マイ)ノ
節ニ物價手當(電信略號ヌン)ヲ新設シ支辨ノコトニ定メラル

款	項	目	節	解	號	會計科目 附屬略號
臨時軍 事費	臨時軍 事費	雜給及 雜費				

官房經第四號
臨時軍事費特別會計歲出科目中左ノ通追加ス
昭和二十一年一月二十八日

第二復員大臣

スベシ
五 支出官又ハ資金前渡官吏支拂豫算各自ノ増減ヲ要スルトキ
ハ支出官ニ在リテハ支拂豫算増減更定請求書ニ依リ經理局長
ニ、主任出納官吏及分任出納官吏ニ在リテハ前渡資金増減請
求書ニ依リ支出官又ハ主任出納官吏ニ請求シ之方承認ヲ受ク
ベシ但シ特定ノ制限豫算ニ付テハ豫メ所管經理部長ニ協議ス

六 各出納官吏ハ相互ニ前渡資金ノ分割授受ヲ爲スコトヲ得但
シ地方復員局管下各部ニ在リテハ特別ノ事情ナキ限り所管經
理部出納官吏トノ間ニ之ヲ行フモノトス

附 則
本令ハ昭和二十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十七年官房機密第一一八八二號ハ之ヲ廢止ス

第二復員省公報

第三一號

昭和二十一年一月三十一日(木)

第二復員大臣官房

○令 達

内令第一五號

昭和二十年内令第二號第二復員省、地方復員局及地方復員人事部ノ定員ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十一年一月十六日

第二復員大臣

地方復員人事部定員表備考中第三號ヲ第四號トシ第二號ノ次ニ
撤號ヲ加メ
復員官補ノ定員ニハ軍人以外ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコト
ヲ得

(昭和二十年十二月三日第二復員省公報参照)

○通 牒

官房總第一一號

昭和二十一年一月二十六日

第二復員省大臣官房庶務課長

各 廳 長 殿

「朝鮮總督府」ノ名稱使用禁止ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通通知有之候條了知相成度

第二復員省公報 第三一號 昭和二十一年一月三十一日

(別紙)

管民第四號

昭和二十一年一月二十一日

内務省管理局長

第二復員省庶務課長殿

「朝鮮總督府」ノ名稱使用禁止ニ關スル件

聯合國最高司令部ヨリ客月二十六日附ヲ以テ自今「朝鮮總督府」ナル名稱ハ帝國政府ノ如何ナル機關局部課ノ名稱トシテモ之ヲ使用スルコトヲ得ザル旨ノ覺書ニ接シタルニ付御了知相成度
追而從來ノ朝鮮總府東京事務所ハ朝鮮關係殘務整理事務所ト改稱セルニ付爲念

○雜 款

○郵便物發送先

當衙宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度

記

廣島縣佐伯郡大竹町

吳地方復員局法務部

(吳第二復員地方裁判所)

○郵便物廻送ノ件

病院船高砂丸宛郵便物へ左記へ廻送相成度

記

一月十九日以降長崎縣佐世保市佐世保局留置

(高砂丸病院長)

○事務開始

當連絡所假事務所ヲ昭和二十年十二月二十五日左記ニ設置シ事務ヲ開始セリ

記

山口縣下關市吉見町(下關地方掃海支部内)

(山陰線吉見驛ヨリ徒歩約十五分)

(下關上陸地連絡所)

○取消

左記ノ者ハ十二月三十日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消サレタリ

記

海軍軍醫中佐 丸山敏夫(三四)

同 佐々木 宏(三八)

海軍軍醫中尉 浦本 藩一(三九)

海軍軍醫少尉 林 節 夫(三九)

海軍藥劑大尉 山田榮八郎(ヤ二四)

海軍藥劑少尉 伊東和夫(ク一五)